

令和4年度 学校評価（総括評価表）

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | | 総合評価 | 学校関係者評価 今後の改善方策 |
|--|--|---|-------------------|-----------|------|--------------------|
| ◆児童生徒一人一人を大切にし、その個性や能力に応じて自己実現をめざす個別最適な教育の推進 | <p><小学部> ・児童一人一人の特性や配慮事項等の共通理解を図り、児童の中心的課題を考へることによって個別最適な授業作りの基盤をつくる。</p> | <p>評価指標 ・現在授業を実施できている通学生の児童4名について中心的課題を導き出す検討会を一人につき1回以上実施することができる。</p> | <p>評価指標による達成度</p> | <p>評定</p> | (所見) | |
| | <p>活動計画 ・ケース会等を通して児童の特性や配慮事項等を周知することで共通理解を図り、児童の実態について教員の理解を深める。 ・児童の中心的課題の検討会を企画し、実態把握を元に、各教員がそれぞれ課題を出し合い、児童の中心的課題を導き出す。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> | | | | |
| | <p><中高等部> ・生徒の社会参加と自立に向けての支援方法を、学部内で共通理解する。</p> | <p>評価指標 ・生徒の実態や支援方法を情報共有するための学部ケース会を年間4回実施する。</p> | <p>評価指標による達成度</p> | <p>評定</p> | (所見) | |
| | <p>活動計画 ・個別の指導計画様式5及び6をもとに、前期・後期各2回ずつ実施し、担任や教科担任からの情報を学部全員で共有する。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> | | | | |
| | <p><研究課> ・各教科や自立活動の指導の充実を図るため、自立活動の指導内容を整理したり、様々な支援方法について学んだりすることで、個別の指導計画に反映できるようにする。</p> | <p>評価指標 ・児童生徒の実態と課題について、自立活動の指導内容6区分に分けて整理する表を作成し、それについて話し合う機会を年間2回以上設ける。 ・児童生徒の実態や課題に焦点を当て、支援方法等について学ぶ事例検討会を年間3回以上実施する。</p> | <p>評価指標による達成度</p> | <p>評定</p> | (所見) | |
| | <p>活動計画 ・自立活動の指導内容6区分の表を元に、児童生徒の実態を整理し、そこから考えられる課題をそれぞれ挙げて、個別の指導計画の目標につなげられるようにする。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> | | | | |

| | | | | | |
|---|---|-------------------|-----------|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や課題から考えられる様々な支援方法について、教員間でテーマを出し合い、研修を実施する。 | | | | |
| <情報視聴覚課> ・教員のICT活用に関する指導力の向上を図り、児童生徒のニーズに即したICT教材や支援機器を使用することや、病棟・家庭・地域間をつなげるテレビ会議システムを活用する。 | 評価指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や支援機器等の活用に関する校内研修や遠隔授業に関する研修を年間10回以上実施する。 ・在宅や病棟の児童生徒とのテレビ会議システムを利用した学習を年間10回以上実施する。 | 評価指標による達成度 | 評価 | (所見) | |
| | 活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器や支援機器等の活用に関する内容や遠隔授業についての校内研修を実施する。 ・病棟や在宅の家庭と日程調整を行い、テレビ会議システムを用いて授業や行事、地域交流に参加する機会を設ける。 | 活動計画の実施状況 | | | |

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | | 総合評価 | 学校関係者評価 今後の改善方策 |
|-----------------------|--|---|-------------------|-----------|------|--------------------|
| | | 評価指標による達成度 | 評価 | (所見) | | |
| ◆安心安全な教育環境の整備と危機管理の推進 | <小学部> ・常に危機意識をもつとともに、防災や緊急対応等を行い、教員の安心安全への意識の向上を図る。 | 評価指標 <ul style="list-style-type: none"> ・年間28回以上の危機管理に関する取組を行う。 | 評価指標による達成度 | 評価 | (所見) | |
| | | 活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・学部会後に危機管理に対するプチ研修を行う。 ・教員全員が輪番で学部の職員朝礼で定期的に危機管理の啓発を行う。 ・学部集会等で児童への防災等の活動を取り入れ、児童にも啓発を図る。 ・昨年度作成した安全管理チェックシートは継続して活用する。 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | <中高等部> ・生徒が安心安全な学校生活を送れるように環境の整備を図る。 | 評価指標 <ul style="list-style-type: none"> ・各教室の危険箇所の有無の確認を2か月に1回実施する。 | 評価指標による達成度 | 評価 | (所見) | |

| | | | | | |
|--|-------------|---|-------------------|-----------|------|
| | | 活動計画 ・チェックシートを作成し、2か月毎の最終木曜日の総合的な学習（探究）の時間に、生徒と一緒に各教室等を確認する。 | 活動計画の実施状況 | | |
| ＜特別活動課＞ ・防災教育を通して、災害時における児童生徒の主体的な安全確保の能力向上を進めるとともに、地域住民との交流や近隣病院と連携を深める。 | 評価指標 | ・近隣病院を避難場所とする避難訓練を年間1回実施することができる。 ・年間1回以上、地域の方に周辺地域の自然災害への危機管理についての働きかけと啓発活動を行う。 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) |
| | 活動計画 | ・近隣病院と連携し、病院を避難場所とする地震避難訓練を計画し、実行する。 ・周辺地域の防災情報や学校のQRコードを掲載したリーフレットを作成し、生徒が地域住民に配布する。 ・地域の方や近隣病院、施設等をチェックポイントとした防災オリエンテーリングを実施する。 | 活動計画の実施状況 | | |

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | | 総合評価 | 学校関係者評価 今後の改善方策 |
|------------------|--|--|-------------------|-----------|------|--------------------|
| ◆研修の充実と教員の専門性の向上 | ＜小学部＞ 専門家によるアドバイスや各教員が持つ専門的知識を情報共有することで学部の児童に関する指導の専門性を向上させる。 | 評価指標 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) | |
| | | ・専門家から得たアドバイスや各教員が持つ専門的知識を学部会後やケース会を活用して研修し、専門的知識の共通理解を図る。年間14回以上研修会を実施する。 | | | | |
| | | 活動計画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | | ・コンサルテーションや社会人講師によるアドバイスを周知し、児童に必要な知識を共有する。 ・専門家による助言のない児童については、各教員のもつ専門的知識や技術について研修する。 ・教員一人1回以上研修を計画し、講師を担う。 | | | | |

| | | | | |
|--|---|-------------------|----|------|
| <中高等部> ・特別支援教育学会分科会発表が有意義な発表になるよう研修を充実させる。 | 評価指標 ・各グループ、全体での研修を発表までに計3回実施する。 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) |
| | 活動計画 ・発表本番に向けて、資料作成を行い、発表前には各々の役割を確認しながら進めていく。 | 活動計画の実施状況 | | |
| <教務課> ・教員が、学校支援システムによる指導要録の作成をスムーズに行えるように、研修ビデオを作成する。 | 評価指標 ・9月末を目途に研修ビデオを作成し10月の職員会議で周知することができる。 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) |
| | 活動計画 ・1学期中に、昨年度研修のために作成したパワーポイントの資料を更新する。その後、パワーポイントの資料に基づいて、解説をしながら作業をしている様子をビデオに収め、完成させる。 | 活動計画の実施状況 | | |

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | | 総合評価 | 学校関係者評価 今後の改善方策 |
|-----------------------------------|---|--|-------------------|----|------|--------------------|
| ◆保護者・地域及び関係機関との連携や協働による持続可能な学校づくり | <小学部> 児童一人一人を幅広い基盤で支え、切れ目ない支援の礎を築くため、地域及び関係機関に働きかけ、ケース会及び情報交換会を行い、教育活動をよりよいものにする事ができる。 | 評価指標 ・一人につき、年間1回以上地域及び関係機関を交えたケース会及び情報交換を行う。 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) | |
| | | 活動計画 ・児童を支援する関係機関や地域に働きかけ、ケース会や情報交換等を行い、児童の教育や支援に活かす。 ・個別の支援計画の様式4に反映させ、関係機関との連携を充実したものにする。 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | <中高等部> ・生徒の活動への理解向上のため、吉野川市役所や藤井寺の方々との交流を深める。 | 評価指標 ・吉野川市役所及び札所との交流は年間3回を予定しており、遠隔（リモート）を基本としつつ、年間1回は直接交流をする。 | 評価指標による達成度 | 評定 | (所見) | |

| | | | | |
|---|---|---|---------------------------------|----------------------------|
| | <p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔交流では、代表の生徒が直接現地に行き、あとの生徒は遠隔で交流を図るようにする（コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら進める）。 | <p align="center">活動計画の実施状況</p> | | |
| <p><特別支援教育課> ・特別支援教育巡回相談員活動等を通して、本校のセンター的機能を発揮する。</p> | <p align="center">評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター的機能のチラシを作成し、関係機関等に100枚以上配布するとともに、特別支援教育巡回相談員による相談支援を行う。 ・巡回相談や研修申込をしやすくするために、ホームページ上に地域支援の専用フォームを設ける。 | <p align="center">評価指標による達成度</p> | <p align="center">評価</p> | <p align="center">(所見)</p> |
| | <p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉野川市と阿波市の保育所・こども園小学校・中学校・高等学校に在籍する特別な支援を要する幼児児童生徒に関わる職員等への教育相談を実施するとともに各校のコーディネーター等に連絡を取り、ネットワークづくりを推進する。 ・特別支援学級（病弱・身体虚弱学級）担任者研修会参加校にチラシを配付し、その後も各校のコーディネーター等に連絡を取り、児童生徒の様子を把握する。 ・自立支援協議会等で広報活動を行う。 ・派遣依頼の様式等をホームページに掲載しておく。 ・かも先生の特別支援教育だよりを年間6回以上更新する。 | <p align="center">活動計画の実施状況</p> | | |

令和4年度 学校評価（総括評価表）

徳島県立鴨島支援学校

